

カトリック六甲教会 教会報

ペトロカスイ岐部

7月1日は「福者ペトロ岐部司祭と187殉教者」の記念日です。

迫害の最も厳しい1603～39年に殉教したキリシタン188人が、8年前に列福されました。大部分は武士や農民などの信徒であり、禁教令や迫害がなければ平和な生涯を送り、人知れず忘れられていった、ごく普通の庶民です。決して彼らは英雄や勝利者として行動したわけではありません。ただ神との間に、極めて密接な関係を築くことができ、その時代背景の中で殉教という実を結んだのです。「殉教」に通じる神との密接な関係を深めることは、時代を超えて教会に求められる基本的な生き方です。

いつくしみ深い父よ、福者ペトロ岐部と一八七殉教者は、復活のいのちを約束してくださるあなたの愛に希望を置き、自らキリストの十字架を担い、その死を身に帯びる生き方を選びました。

殉教者の取り次ぎによって祈ります。現代に生きるわたしたちが、どのような困難なときにも聖霊の助けに信頼し、キリストに従い、あなたへの道をひたすら歩むことができますように。

また殉教者のあかしが、世界に生きるすべての人の希望となるよう、ペトロ岐部と一八七殉教者を、一日も早く聖人の列に加えてください。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。（日本カトリック司教協議会認可）



188人の中には4人の神父が含まれています。神出鬼没の妖術使いと言われ長崎を中心に働いたトマス金鏑次兵衛（西坂で殉教・37歳）高山右近と共に追放されたマニラで司祭となり、畿内・四国・江戸を巡り信者を支えたディオゴ結城了雪（大坂・62歳）少年遣欧使節として教皇と対面し、聖ルカ・スピリト・サント（1987年列聖）らと共に殉教したジュリアン中浦（西坂・65歳）そしてこれから簡単に語ろうとしている「世界を歩いた神父」として知られているペトロカスイ岐部（江戸・52歳）です。いずれも穴吊りの刑での殉教でした。



ペトロ岐部は、1587年、国東半島の岐部に生まれ、有馬のセミナリオで学んだ。同宿になって働いていた1614年、宣教師と共にマカオへ追放された。そこでは司祭への道が閉ざされていたので、1618年マカオを出奔インドのゴアへ行き、さらに言葉も風俗も知らずに中東の砂漠を横断しての一人旅でエルサレムを訪れた。彼は聖地を巡礼した最初の日本人となった。遂に目的のローマに1620年たどりついた。ローマですぐに司祭に叙階され、イエズス会への入会が許され、リスボンで誓願を立てた。迫害に苦しむ日本の教会のために自分を与え尽すことを熱望していたペトロは帰

国の途に就いた。鎖国の日本への帰国は困難を極めたが、リスボンを出て8年後に薩摩の坊津にやっと上陸・潜入することができた。確かにその生涯は旅であった。だが彼をその旅に駆り立てた力は、神と同胞に対する愛の外にはない。(写真は大分県国東市国見町岐部 ペトロ・カスイ岐部記念公園内の像)

潜伏していた長崎では1633年(中浦ジュリアンたち殉教の時)、背教したフェレイラに会って殉教を勧めた。その後、東北地方に移動し、数年間の活動ののち仙台で捕らえられ、江戸に護送された。将軍家光からも直々に調べを受け、さまざまな拷問の末、穴吊りにされた。最後は棄教の見込がないと、真っ赤に焼けた鉄棒を腹に押しつけられ絶命した。ペトロ岐部の処刑について、奉行井上筑後守直の所見が残っている。「キベヘイトロはコロび申さず候」

(宣教部 飯塚)



ナルドの花たより

このいつくしみの特別聖年は、すべての人にとって和解のときです。(6月30日)
Jubilee of mercy is a time of reconciliation for everyone.

もし神が私たちの生活の中にいてくださるなら、その福音を届ける喜びは、私たちの力や幸せとなるでしょう。(6月28日)
If God is present in our life, the joy of bringing the Gospel will be our strength and our happiness.

人は、自分自身を成長させるための第一の職人、第一の責任者です。(6月21日)
People are the primary artisans of their own development, the first in charge!

特に困難にある時、疲弊して、祈りの中で主に助けを求められなくなってはなりません。
(6月12日)
Do not tire of asking in prayer for the Lord's help especially in difficulty.

私たちは共通の人間性が有する基本的な価値観を認識しなければなりません。それは私たちが協力でき、協力しなければならない人々のもつ価値観です。(6月10日)
We need to recognize the fundamental values of our common humanity, values in the name of which we can and must cooperate.

一人一人に与えられた賜物を見出すことが必要です。種々の共同体がその人たち固有の価値観を伝え、他者の経験を進んで取り入れますように(6月8日)
We need to discover the gifts of each person: may communities transmit their own values and be open to the experiences of others.

カトリック中央協議会 教皇フランシスコのツイート(邦訳)より



2016年度第2回地区役員会（2016年5月29日）議事録

アルフレド主任司祭、 堤 評議会議長、 地区役員

下記の項目について論議された。

- 1 教会行事日程表、地区連絡網の配布
- 2 納涼の夕べ（8月20日）について（納涼の夕べ企画チーム：大倉さん、林さん、橘さん）
- 3 受洗された方、転入された方への対応

次回地区役員会 7月17日（日）12：00～



財務報告会

6月5日（日）10時ミサ後聖堂で教会の財務についての報告会が行われた。多くの信徒の方に残っていただき、平成27年度の教会の財務状況、小教区評議会の財務報告、そして施設管理部からは今後の教会を維持していくための設備、改修計画などが説明された。



アルフレド神父は、今後10年間の教会改修にかかる費用を考えた場合、現状トレンドから見て各世帯がこれから年間3,000円の維持費の増額をしてもらえれば助かると、締めくくられた。

（財務委員会 蛭田）

<行事報告>

壮年会懇親会（5月22日）

夏の暑さがもうそこまでやって来ていますが、皆さん体調管理に気を付けてお過ごしでしょうか。今年も5月22日教会内で壮年会の懇親会の集まりが有りました。今年のテーマは、「これからの六甲教会の未来」と言う課題で話を進めて行き、大きなテーマでしたが、参加者の思いを分かち合い共有することが出来たと思います。

今年の秋には久しぶりに婦人会と壮年会と共同でバーベキューをする事になっていますので、皆さんのご協力をお願いします。楽しい時間を過ごせるように壮年会と婦人会は小さな活動体になりましたが、これからも頑張っていきます。

（壮年会 井川）



<行事報告>

春の六甲教会黙想会（5月28日）

私達は教皇様に関するニュースを一般誌やTV報道でよく見ます。しかし、信徒としてもっと積極的に「教皇様の発信されるメッセージ」について考える機会が欲しいと考えました。そこでイエ

ズス会で管区長補佐をされ、今年祇園教会の助任司祭となられた作道神父様を候補にお願いし、「教皇フランシスコが目指しておられる教会の姿と特別聖年の意味を深く味わう」時間を持つことができると、今回の春の黙想会になりました。

当日はあいにくの曇り空で参加者が例年より少なかったのは残念でしたが、神父様は教皇フランシスコの人となりや写真を交え話をされました。そして、「閉じこもった教会でなく、必要のあるところへ出かけていく教会への変化」を身をもって実践される教皇の姿を通し、特別聖年の「いつくしみ」を解説され、短時間ではありましたが有意義な時間となりました。

(藤原)

春の黙想会にあずかって（5月28日）

作道神父様は、『福音の喜び』と『イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔』から「いつくしみ」について説明された。そのお話の中で、「いつくしみ」とは「母心」と言われたことに心が打たれた。

聖母マリアのことを想うとき、母心がわかるような気がする。母心には奉仕、献身、思いやり、忍耐、謙虚、勤勉、ゆるしなどの徳があげられるが、もう一つ特別聖年公式賛歌の憂いを含んだ曲と詞が示す「安らぎ」もあるように感じています。

(エドワード木鎌)



<行事報告>

祈りと音楽の集い（6月19日）

～和みのヴォカール～

梅雨空の日曜日の午後、開演前までは時折激しい雨が降っていましたが直前に止み、心配した来場者も120名あまりと、それなりの「祈りと音楽の集い」となりました。

今回は六甲教会のメンバーを中心としたアンサンブル「イソジーナ」の歌とオルガンの演奏で、かなり企画に苦勞したようです。グレゴリオ聖歌を中心に構成され、美しいイソジーナの歌声が聖堂いっぱいになると、会場の皆さんはしばし安らぎの世界に引き込まれるようにうっとりとおられました。

ただ、音楽チームの一員として残念に思うのは、この「祈りと音楽の集い」に来られるのは外部からの方が多く、六甲教会の信徒が少ないことです。

次回もいい企画を準備していますので、是非、多くの方のご参加をお待ちしております。

(音楽チーム 蛭田)



《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします。

📍 教会学校

7月16日(土) 終業式

📍 地区会

7月17日(日)12:00 役員会

📍 典礼部

7月16日(土)10:00 典礼部会

📍 典礼部

7月24日(日)12:00 宣教師会

《お知らせ》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです。

◆ 社会活動部より ◆

7月6日(水) 10時 手芸の集い(第1、第2会議室) どなたでもご参加できます。

7月9日(土) 10時 炊き出し (イグナチオホールお台所)

小野浜グラウンドにて、おじさん達のお話し相手や配食だけでもOKです。

7月17日(日) 10時ミサ後 ふれあい広場 (イグナチオホール)

7月21日(木) 14時～ ベタニアの集い

7月22日(金) 9時半 ともしび会 ケーキ作り (イグナチオホールお台所)

社会活動部からのお願い

野宿者に愛の手を ♥

野宿者用の毛布・タオルケットが不足しております。

ご家庭で眠っている不要の毛布・タオルケットがありましたら、必ずお洗濯かクリーニングされたものを、以下の期間中ごミサに来られた時に聖堂入口の箱にお入れください。

7月10日(第2週主日)～7月24日(第4週主日)

平戸・生月島祈りと巡礼の旅

5月19日(木)～21日(土)2泊3日の「平戸・生月島祈りと巡礼の旅」に、アルフレド神父始め、総勢31名が参加しました。

19日(木)は、朝、新神戸駅に集合、博多駅まで新幹線、観光バスに乗り換え、途中、秘窯の里・伊万里を見学の後、田平教会を巡礼し、平戸海上ホテルに宿泊しました。

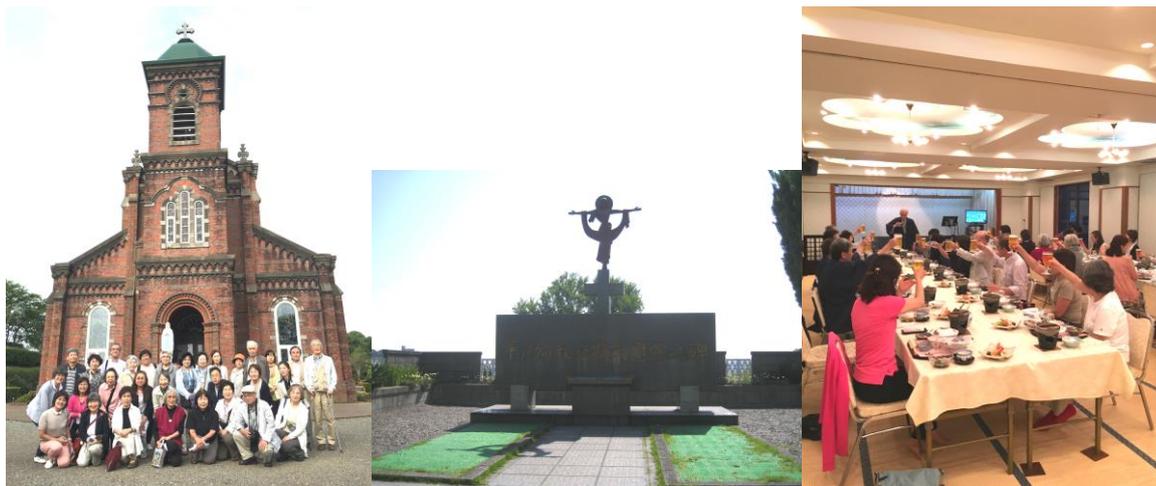
20日(金)は、聖フランシスコザビエル記念聖堂でミサの後、カトリック紐差教会、山野教会堂、黒瀬の殉教地(ガスパル様)、山田教会堂、を巡礼、平戸・生月島博物館も見学等、盛り沢山の一日でした。

21日(土)は、カトリック上神崎教会での、信徒交流会の後、西海国立公園・九十九島を遊覧、博多でバスを降りて、夕刻、新神戸駅で解散となりました。

巡礼に添乗した、カトリック教徒のガイドさんのお話や、手作りのお菓子を用意してお話し下さった、上神埼教会の信徒の交流会が印象に残りました。

また、2日間、ホテルでの夕食懇親会は、後の二次会参加者も多く、神父様を囲んで楽しい交流会の場となりました。私は、歩行機能低下のため一部車椅子を使用しましたが、神父様に押して頂いたのは、受洗以来、初めてです。有難うございました。巡礼企画をお世話下さった皆様に感謝致します。
(浅沼)

日 程	行 程
5月19日(木)	新神戸発⇒博多着⇒海中レストラン“曼坊” ⇒カトリック伊万里教会・伊万里秘釜の里(大川内山)⇒ホテル
5月20日(金)	★平戸巡礼出発 (平戸・生月巡礼コース) 平戸港交流広場⇒聖万才ノガビイル記念教会⇒川内峠⇒生月町博物館⇒ ガスパル様⇒山田教会⇒塩俵の断崖⇒大バ I 灯台⇒ササヅウヱイ⇒生月大橋⇒ 春日の棚田⇒根獅子の浜⇒平戸市切支丹資料館⇒紐差教会⇒宝亀教会⇒ 川内港⇒ホテル
5月21日(土)	九十九島クルーズ(パルウィーソ乗船/約1時間)⇒九十九島“海遊”⇒博多着 ⇒新神戸着



料理教室へのご招待

私の小さい頃は、長男であった為「男は厨房に入らず」と育てられました。しかし、今では料理をする中高年男性が私の周辺でも増えてきています。もともと私は40歳代の頃、単身赴任をしていたので、全く料理は初心者ではなく、嫌いでもなかったのです。

今も朝早く起きて、毎日職場に持って行く自分の弁当作りを続けていますが、4月から水曜日も休みが取れるようになったので、かねてから誘われていた「料理教室」に参加することにしました。現メンバーは男性7名と女性1名で、毎回女の先生がレシピを用意して下さい、それに基づいて参加者は分担して料理の下ごしらえをしたり、煮炊きをします。先月は「ほうれん草のあんびたし」、「にんじんの卵焼き」、「豚肉と豆腐の小鍋仕立て」、「あさりご飯」4品にデザートとして「みつ豆」を添え完成しました。

昼食は神父さんたちとゲストも招待して、出来上がった料理をみんなで和やかにいただきます。

料理は頭の活性化につながるとともに、家内がいつ倒れても自立出来る備えにもなるのです。お時間のある男性の皆さん、一緒に料理を作ってみませんか。女性の参加も歓迎です。料理教室は毎月第3水曜日10時から教会の厨房で行っています。「男子も大いに厨房に入りましょう！」

(蛭田)

一心不乱に料理の下ごしらえをしています。

今日の料理5品

神父も交え話も弾みます。



■ 2016年05月に匿名の方から寄贈された図書

★ アシジの聖フランシスコ伝記資料集

フランシスコ会日本管区 訳・監修 教文館

太陽を兄弟とし、小鳥に語りかけ、病者と貧者を愛した聖者の軌跡。新たな修道生活の創始者・中世最大の聖人のもっとも初期の証言を集成した源泉資料集。チェラノのトマス『生涯』『魂の憧れの記録』 聖ボナヴェントラ『大伝記』『小伝記』 珠玉の文学作品『小さき花』など聖人伝8作品を収録。



みんなの広場

7月31日

1556年7月31日、ロヨラの聖イグナチオ帰天の日で記念日、今年は主日に当たり典礼暦から記念が消えましたが。

この教会はイエズス会に委託されています。発端は学校でした。イエズス会が関西に手を出したのは1937年、芦屋の一家に居を借りて先輩小林聖心のマザーなどの助言を得て中学校開設の準備を始めたのが最初でした。今は開けていますが当時は歩くのも難儀な山道、その山道を登った谷間に学校を建てようとは、いくら地価が安かったとは言え常識の埒外でした。

聖イグナチオについては、名はよく知られていますが事跡はあまり知られていないようです。Wikipediaの「イグナチオ・デ・ロヨラ」で手軽に概要を知ることができます。内容も一応妥当と言えましょう。参考文献も掲げられています。

聖イグナチオが他の6人と共にモンマルトルで、その中の一人ファールが捧げるミサの中で誓願を立てたのは1534年8月15日。既に司祭であったのはファール一人だけ、聖イグナチオもまだ司祭に叙階されてはいませんでした。

聖イグナチオといえば、「靈操」、活字が小さいのが難点ですが、岩波文庫の門脇佳吉師訳注「靈操」は、毎日読まないとしても、手元に置いて時々読んでみるには丁度よい本です(叱られるかな)。聖イグナチオは靈操本体の後に靈操に当たっての「諸規則」をおいています。靈操者でなくても、わたしたちの日常にそのまま適用できることが多々あります。本物の「靈操」にはならない

けれど。昔、ブラウン神父様から頂いた聖イグナチオの遺物が今もわたしを睨んでいます。

5月号でも触れましたが、「霊操」といえば、嘗てこの教会では毎年8月、壮年会、婦人会、男子青年会、女子青年会それぞれに3日間、毎年異なった指導師による霊操の「原理と基礎」に基づいた黙想会が催されていました。青年会だけは一人一人首を捕まえて引っ張ってこなければなりませんでしたが。わたしが修道者ではない将来を決めたのはこの黙想会の間でした。近頃の若者たちはどうしているのでしょうか。

最近では社会が多様化して、三日間黙想会に加わることも容易ではなくなりましたが、それだけにより必要になったとも言えましょう。夏休みのスケジュールに加えておいては。海外旅行の一部に「長崎黙想の家」は。黙想の場所は他にも色々あります。 (ヨハネ 三好)

<p>教会報 8月号の発行は7月31日(日)です。 原稿は7月17日(日)までに教会受付へご提出 ください。 FAX 及びメールでも受付いたします。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6 F A X 0 7 8 - 8 5 1 - 9 0 2 3 発行責任者 アルフレド・セゴビア 編 集 広 報 部</p>
--	---

